

補助金見直し基準チェックシート（第2次実行計画）

10

危機管理課

補助金の名称 (規則・要綱名)	青色回転灯パトロール活動事業補助金 西尾市青色回転灯パトロール活動事業補助金交付要綱		
補助事業の概要 及び交付先	地域において、自主的に防犯パトロールを実施する団体(青色回転灯を装着しての活動に限る)に対して、その活動に要する費用の一部を助成することにより活動の充実を図り、安心して暮らせる地域づくりを推進するものである。交付先 自主防犯団体		
補助金の額	平成28年度決算	平成29年度予算	平成30年度予算
	199,000円	300,000円	300,000円
分類	形態による分類	期間による分類	目的・性格による分類
	市単独補助金	継続的補助金	事業費補助金
交付期間	開始年度	H19	終了年度(予定) 未定
見直し基準 1 共通事項	ア 社会情勢の変化により補助目的は適切か		適切
	イ 市が補助すべきものか		補助すべきもの
	ウ 補助対象となっている経費の使途は明確か		明確
	エ 会計処理・実績報告が正確に行われているか		適切
2 個別事項 (1) 団体運営費	ア 少額の補助金か		*****
	イ 翌年度繰越金は補助金の額を上回っていないか		*****
	平成26年度繰越金	平成27年度繰越金	平成28年度繰越金
	0円	0円	0円
	ウ 食糧費・旅費の割合は30%をこえていないか		*****
	エ 事業費補助金に切り替えられないか		*****
	※ 検討していない理由	*****	
(2) 補助対象経費	補助対象経費の3分の1以内か		3分の1以上である
	※ 補助対象経費の額	300,000円	
(3) 人件費補助金 (積算内訳)	*****		
3 今後の方向性	現行のまま補助を継続		
	近年の犯罪の増加や治安に対する不安感の増大に伴い、地域の住民等による自動車を利用した青色防犯パトロールを行うことより住民の防犯意識の向上に寄与するとともに、犯罪に対する抑止効果も高まるため、来年度も同様に補助金を継続すべきである。		
4 終期の設定	補助金交付要綱等に終期を設定しているか		設定している

補助金見直し基準補足調査票（第5次実行計画）

10

危機管理課

補助金の名称 (規則・要綱名)	青色回転灯パトロール活動事業補助金 西尾市青色回転灯パトロール活動事業補助金交付要綱	
①総合計画施策コード	章による分類	5 自然環境・生活 安全とるおいのある環境づくり
	項による分類	7 防犯・交通安全
	施策内容による分類	3 地域の安全活動の推進
②市長マニフェスト		
③補助の終了年度までの目標を記載してください。 (可能な限り数値的な目標を記載)	各地域における自主防犯団体の行う防犯パトロールの活動に要する費用の一部を助成することにより活動を促し、また新たな自主防犯団体の設立を目指す。	
	上記目標は、適切な目標が設定されているか。	設定されている
④目標に対する進捗状況及び進捗率を記載してください。	H29年度 5団体(花ノ木小学校区徳次親交会、新村町防犯パトロール隊、米小校区青色パトロール隊、吉良温泉観光組合、白浜校区防犯協会)	
	補助の終了年度までの目標を達成できているか。	進捗が見られない
⑤補助の恩恵を受ける人(受益者)を記載してください。	市民	
	市税の使い道として、受益者に偏りはないか。	偏りはない
⑥補助金の交付先を記載してください。	自主防犯団体	
⑦社会ニーズ、優先度、補助の効果、メリットなどについて記載してください。	地域住民による青色回転灯を装着したパトロールにより、犯罪の抑止効果が高まるとともに住民の防犯意識の向上に寄与し、自主的な防犯活動を促すことができる。	
	上記内容は、公益性の観点からどうか。	メリットがある
⑧補助団体等の補助金の使途、申請金額の根拠、財政状況などを記載してください。	防犯パトロールに要した費用について、実績報告書と収支報告書の提出を求め、提出書類の審査をしている。	
	上記内容は、補助金の交付先として適格か。	適格である
⑨要綱等の制定年月日は何時ですか。	制定年月日	平成19年06月01日
	改定年月日(最終)	

補助金見直し基準補足調査票（第5次実行計画）

10

危機管理課

項目		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算	
補助金の額等	補助金支出額	199,000円	193,000円	300,000円	
	補助件数				
	財源	国庫県費			
		その他			
		一般財源	199,000円	193,000円	300,000円
国庫県費等の名称					

補助金等検討委員会の評価

目標	達成度	公平性	公益性	妥当性	効率性	適格性
成果目標(指標)は適切な目標(指標)か。	目標を達成できているか。実現に近づいているか。	受益者は、公平性の観点から偏りはないか。既得権益化していないか。	社会ニーズ、優先度、補助の効果などは、公益性の観点からどうか。	成果を下げることなく、他の主体・実施方法を検討する余地はないのか。	手法改善等により、成果を下げずに効率的な交付となっているか。	補助金の用途、申請金額の根拠、財政状況などは、適格性の観点からどうか。
C	C	C	C	C	C	C
評価結果	補助金等検討委員会		補助金検討委員会からのコメント			
	見直し		犯罪が増えている中で、補助団体構成員の高齢化などによる担い手不足が課題であり、制度全体の見直しが必要と考える。			
補助金等検討委員会の主な意見						
この予算では防犯に対して効果的とは思えない。						
補助団体数が5団体と少なく事業制度を見直した方が良いのではないかと。						
当初は効果があったが、青色回転灯パトロールに慣れが生じ、時代的な環境の中で役割が終わった感がある。						
公用車を白黒にして青色回転灯パトロールにすることも防犯効果が得られると考えられるので検討されたい。						